

高知県は少子高齢化が進み、地域産業も他県と比べ勢いが衰えてきている。しかし、高知県は植物の種類が多く約 3170 種が生育している。その中から有用な植物を研究し、高知の新しい産業につなげるきっかけをつくるのが最終的な目標である。本研究発表ではユリ科ウバユリを対象に絞った。ウバユリには ACE 阻害活性（高血圧抑制）効果があることが分かっている。また、古くから食経験が有り、多年草でもあり高知県内にも生育している。そこで高知県内各地から採集したウバユリに含まれている抗酸化物質（スカベンジャー）の抗酸化力を DPPH ラジカル消去活性評価により測定した。

また、その測定結果を、QGIS を利用し、地理的に傾向を調査する。加えて、DNA シークエンシングにより塩基配列を特定し、ラジカル消去活性評価の結果によって配列に多形が確認できるかを調査する。しかし、DNA シークエンシングによる手法は所属研究室では行われていないので、ヒロハコンロンカ (JPN) と Dhobini (NPL) を代用し、行い手法の確立を目指す。